



「三島村と出会えてよかった！」

～しおかぜ留学生は三島村でたくさんのことを学んでいます～

しおかぜ留学生が留学して思ったこと、学んだことなどを地元の新聞「南日本新聞」の投稿欄にたくさん投稿してくれていますので紹介します（学年は掲載当時です）。

留学を考えている「あなた」「保護者の皆さん」、ぜひ参考にしてください！

[2023年度]

【掲載内容】

[題 名]	[掲 載 日]	[出身都道府県]
1 価値観の違い 話し合い通じ理解	2023年4月10日	鹿児島県
2 するめも箱詰め 母と姉の思い	2023年4月18日	東京都
3 特攻兵助けた島民	2023年5月27日	東京都
4 竹林のクモの巣	2023年6月22日	愛知県
5 10人でジャンベ 最高の思い出	2023年8月21日	福岡県
6 心つなぐジャンベ	2023年8月30日	滋賀県

価値観の違い 話し合い通じ理解

三島大里学園 9年生

私がしおかぜ留学生として黒島にやって来て1年たった。

振り返って一番の思い出は、留学生同士で暮らした「しおかぜハウス」での時間だと思う。みんなで料理したり、海にダイブしたりと、協力し合いさまざまな貴重な体験ができています。

そんな楽しい毎日だが、それだけではなかった。みんな学年も出身地もバラバラで、価値観の違いに戸惑ってしまい、相手との距離感がつかめなかったこともあった。

しかし、そのたびにみんなで話し合い、少しずつ、お互いが自分のペースも大切にして生活できるようになった。

また私が学校で嫌なことがあった日も、一人で抱え込むことのないよう、同じ部屋の友達や里親さんは優しく手を差し伸べてくれた。おかげで、「もう一度頑張ってみよう」と思えたこともたくさんあった。

4月から最高学年の9年生になった。私もしおかぜハウスでの経験を生かし、困っている人の話を聞いて、一緒に解決できるような人になりたいと思う。



(2023年4月10日 掲載)

するめも箱詰め 母と姉の思い

三島片泊学園 9年生

僕は去年の11月から、東京の親元を離れてしおかぜ留学をしています。

同じ部屋で暮らす留学生の友達が、親に送ってもらったお菓子を何度も分けてくれました。島にはお店がないので、たとえお金があっても買えません。友達がくれたお菓子の味は格別おいしく感じました。

僕も母に頼んで送ってもらいました。ところが届いた箱の中には、僕が大好きなチョコレートやポテトチップスに交ざって、するめが入っていたのです。不思議に思っていると、母と姉からのメモが添えられていました。

「虫歯にならないように」「お菓子を食べたら歯磨きをするように」という内容です。少しおかしくなって、「分かっているよ」と思いながら読みました。そのメモは、今も捨てずに取ってあります。

島での生活は楽しいこともあります、大変な時もあります。だけど、僕はこれからもこの島でがんばっていこうと思います。

(2023年4月18日 掲載)



特攻兵助けた島民

三島大里学園 7年生

今まで戦争について、あまり関心がありませんでした。でも、5月13日に三島村の黒島であった特攻平和祈念祭に参加して、戦争の悲惨さやつらさがよく分かりました。

戦争中に日本の特攻機が島の沖合に不時着し、大けがを負った特攻兵を島民が助けたのです。島民も木の根を団子にして食べるなど苦しい生活なのに、懸命に世話をしたということです。島民の温かさにとっても感動しました。

また、心温まる話も聞き、胸が熱くなりました。不時着した特攻兵の一人がその後、県本土へ戻り、再び出撃したときのことです。

島でまだ治療中だった特攻兵に薬を、世話になった島民にはキャラメルなどを特攻機から投げ落としてくれたそうです。

今もウクライナなどで起きている戦争が早く終わってほしいです。世界が平和になってほしいなと思いました。

(2023年5月27日 掲載)



竹林のクモの巣

三島竹島学園 4 年生

竹島に来て初めてタケノコとりをしました。とても楽しかったです。

私はあんなに長い時間竹林に入ったことがありません。だからクモの巣がいっぱいあることを知りませんでした。

巣はいろいろなところがあるので、先生とはらいながらタケノコをとりました。私はとるときに左右に振るとボキッとなるのが好きで夢中になりました。

竹林にはくさった竹が落ちていました。踏むとまた、バキッとなります。ならずのも楽しくて面白かったです。

たくさんの竹が風などで倒れていて、歩くのに苦戦しました。でも私は体が小さいのでスイスイ行けるところもありました。

ジャングルジムやアスレチックみたいで疲れるけど、めちゃくちゃ楽しかったです。けがをせずにできたので、安心しました。

ものすごく歩いたので疲れました。おなかぐうぐうなりました。帰ってきて食べた給食は、最高においしかったです。



(2023 年 6 月 22 日 掲載)

10人でジャンベ 最高の思い出

三島片泊学園 7 年生

僕たち三島片泊学園の7～9年生10人は7月25日、鹿児島市であった県中学校音楽コンクール「夏の祭典」に出場し、ジャンベを演奏した。そして器楽の部で金賞をもらった。

僕は今年、しおかぜ留学生として転入してから、この日のためにみんなと努力を重ねた。ソロパートを覚え、いい音を出そうと一生懸命だった。

前日の宿は三島村の他の学校と同じだった。他校の友達の手は皮がむけたり、血豆やたこができていたりしていた。努力してきたつもりだったけれど、僕の手とは全然違い、みんなが何倍も努力してきたことが分かった。

夏の祭典に出ると決まったときから僕はドキドキし、同じくらいワクワクしていた。4か月会っていない親が、会場に来てくれるからだ。

僕はこれまでの成果を見せるため、自分にできる最高の力を出そうと考えた。本番前は緊張していたけれど、学校の仲間が一緒だから大丈夫だと思うことができた。

演奏が始まると、緊張なんかすぐに吹き飛んだ。今まで一番楽しくて、最高の思い出ができた。



(2023 年 8 月 21 日 掲載)

心つなぐジャンベ

三島硫黄島学園 4年生

あなたはジャンベという打楽器を知っていますか。僕が知ったのはこの春、硫黄島にしおかぜ留学生としてやってきたときでした。

僕はフェリーのデッキにいたのですが、遠くからたいこの音がしたので、何だろうと思いました。

島に近づくと、港で子どもたちがたたくたいこに合わせて、子どもと大人がダンスを踊っているのです。音が重なり、島中に響いているようでした。

ジャンベは端っこと真ん中では出る音が違います。同じ場所でも力の入れ方で違います。たたき方で音が変わるのが面白いと思いました。

えんそうに合わせてダンスをすると気持ちよくなります。音が聞こえたら、たたいている人の気持ちが伝わって来ます。島が楽しいふんいきになっていきます。だから、ジャンベは人の心をつないでいると思いました。

ジャンベはすごいです。僕は硫黄島でたたいたり踊ったりしながら、心をつないでいきたいです。



(2023年8月30日 掲載)